

個人研究

先生方が、日頃頑張っている研究内容を書いています。
是非、ご覧ください。詳しくは、下記QRコード、もしくは
交野支援学校ホームページよりご確認ください。

NO.01



小学部 吉川 勝敏

【概要】
言語聴覚士資格を有する私は、あくまでも教諭であり、クラス担任をもっている。それゆえ、校内すべての児童生徒の授業や自立活動を担当することはできない。しかし、令和3年度より要請があれば週に1度、給食指導場面に巡回する校内相談支援のシステムができた。その中の一例を第69回全国肢体不自由教育研究協議会で発表したのので内容をそのまま掲載したい。

NO.02



小学部 近藤 宏樹

【概要】
身体の動きが微細で、発語の少ない肢体不自由のある児童生徒にとって「主体的・対話的で深い学び」とは、どのようなものであるか。本実践では、「主体的・対話的で深い学び」の視点を入れたルーブリック評価表をツールとして活用し、チームティーチングにおける授業実践や授業改善を通して、児童の主体的・対話的で深い学びをめざした授業を行った。

NO.03



中学部 木下 達夫

【概要】
「先生、楽しい授業だね。あっ、あとね先生、今の授業って、わたしに何を教えてくれたの？」授業を子どもたちに行う際、いつもこの言葉を頭の隅に置いている。伝えようとしたことが、子どもたちに伝わったのか。支援教育を必要とする子どもたちの「わかったよ」に寄り添える気持ちに加え、少しでも科学的根拠に基づいた授業づくりを考えてみる良いのではないかな。そのような考えから、今回の科学的根拠を取り入れた授業実践報告の初めの一歩となった。

NO.04



中学部 田中 紀行

【概要】
大阪府立特別支援学校の肢体不自由校では、身体の動きや視線入力装置など様々な形で実践されるようになった。しかし、発達段階から見た生徒への実践の報告が少ない現状である。そこで、本実践では、学習到達度チェックリスト(1)で実態・課題を整理し、その後、実践を行なった事例を紹介する。

NO.05



高等部 森野 友輔

【概要】
近年、医療の発達や福祉サービスの充実に伴い、本人・保護者が進路先の事業所に求めるニーズは多様化しており、これまで以上に福祉、医療、教育の連携が求められている。いつの時代であっても支援学校から社会への移行に不安を感じない人はほとんどあたたないだろう。社会への移行に関して、学校として何ができるのか。本校の取り組みを報告する。

NO.06



中学部
田中 紀行・木下 達夫

【概要】
働き方改革が通知される中、本校ではコロナの影響も踏まえて、行事の見直しを行った。運動会・体育大会の競技を中心に自立活動のアプローチの視点の違いをまとめて紹介する。

気に入ったものは、QRコードから
ダウンロードしてくださいね！



カタ
タ
リ
ン